

## 当院における残置薬の実態調査

福家 秀敏, 小野 木薫\*, 落合 弘  
伊藤 立志

### はじめに

病院薬局における残置薬発生にはノンコンプライアンス防止対策の一貫として苦慮していることである。著者らは残置薬発生に影響を及ぼす因子を中心に実態調査を行なったので報告する。なお、1984年3月より慢性疾患の薬剤長期投与が開始され、さらに10月より健康保険改正による医療費一割自己負担が導入された。これらが残置薬に影響を及ぼす因子となるかどうかについても調査した。

### 調査方法

渋谷<sup>1)</sup>は、残置薬とは「病院・診療所の外来調剤室で調剤されたものの患者もしくは、その家族によって受け取られないまま残った薬剤」と定義し、佐藤<sup>2)</sup>によって残置される状態は次の3種に分けられた。

- ① 調剤が終了し「薬渡し口」で患者の名前を呼んでも取りに来ないで残置した薬剤
- ② 患者を呼んでも取りに来ないでその日の業務終了後も残置している薬剤(当日残置薬)
- ③ 調剤した日に受け取られず、一定期間もしくは最終的に患者が受け取りに来ない薬剤(最終残置薬)

著者らは調査の際、当日残置薬を翌日業務開始前に受け取られなかった薬剤とし、最終残置薬を医師の処方日数を過ぎた薬剤とした。

調査期間は1982年6月から1984年12月までの30ヶ月間および1985年1月27日から2月16日までの3週間のデータを検討対象とした。また当院における待時間と残置薬の関係を調査するた

め、1984年11月19日から12月1日までの2週間および1985年1月27日から2月16日までの3週間について、外来ピークがほぼ終了する午後1時までの時間帯で待時間を調査した。待時間は処方せん受付時刻から調剤監査終了時間までとした。

### 結果および考察

1982年6月から1984年12月までの調剤期間における全処方せん数に対する当日残置薬数および最終残置薬数を表1に示した。全処方せん(471,216枚)に対する当日残置薬(11,134件)の割合は2.36%で、渋谷<sup>1)</sup>の2.8%、山岡<sup>3)</sup>の3.24%に比較すると低い値を示した。最終残置薬は30ヶ月間で349件、全処方せんの0.074%であり、当日残置となった薬剤を患者あてに電話または葉書によって連絡する等の積極的な対策をとった小林<sup>4)</sup>の施設におけるデータ(0.067%)とほぼ一致し、渋谷<sup>1)</sup>、山岡<sup>3)</sup>の報告(0.58%、0.2%)より低い値を示した。これら低い値を示す因果関係については当院で外来患者に対し午後8時までと薬業務を行なっているが、その影響なども考えられる。

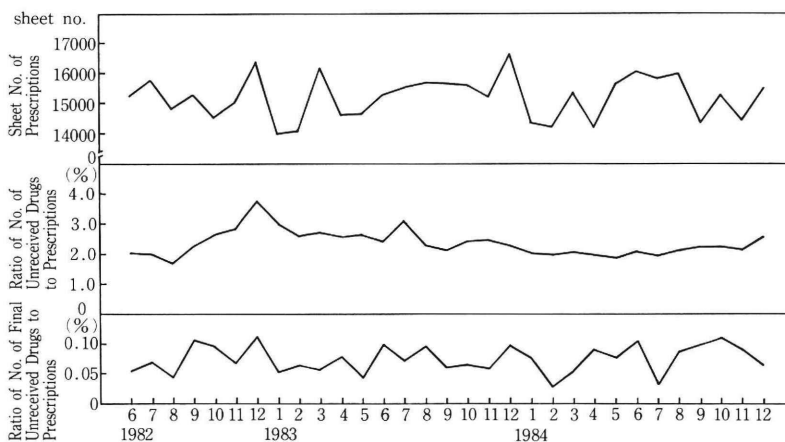
30ヶ月間の処方せん枚数、当日残置率、最終残置率を図1に示した。当日残置率は1984年から2%前後で横軸に対して平行状態であり、最終残置率は約0.05~0.10%の幅で存在した。

1984年3月より慢性疾患に対する長期投与が開始され、さらに10月より医療法改正により医療費の一部負担が実施された。これに伴い、当院の処方せん枚数、当日残置率、最終残置率の変化の有無をみると、処方せん枚数は3月、10月のそれぞれ前後の月が減少を示すが、当日残置率および最終残置率にはほとんど変化が認められず、長期投与および医療法改正による医療費一割負担

\* 東北会病院薬局

**Table 1.** Sheet Number of Prescriptions and Unreceived Drugs and Final Unreceived Drugs of Each Month

Year	Month	Sheet Number of Prescriptions	Unreceived Drugs	Ainal Unreceived Drugs
1982	6	15227	313	8
	7	15787	321	11
	8	14799	255	7
	9	15272	347	16
	10	14535	380	14
	11	15017	423	10
1983	12	16492	617	18
	1	13998	424	7
	2	14086	356	9
	3	16198	438	9
	4	14595	372	11
	5	14635	387	6
	6	15252	366	15
	7	15524	478	11
	8	15670	362	15
	9	15640	334	9
	10	15585	381	10
	11	15195	381	9
1984	12	16576	379	16
	1	14334	299	11
	2	14189	280	4
	3	15337	317	8
	4	14218	280	13
	5	15605	288	12
	6	16054	333	17
	7	15824	306	5
	8	15997	337	14
	9	14350	324	14
	10	15258	344	17
	11	14475	312	13
12	15492	400	10	
Total		471216	11134	349

**Fig. 1.** Relationships between Sheet Number of Prescriptions and Ratio of Number of Final Unreceived Drugs and Number of Unreceived Drugs to Sheet Number of Prescriptions.

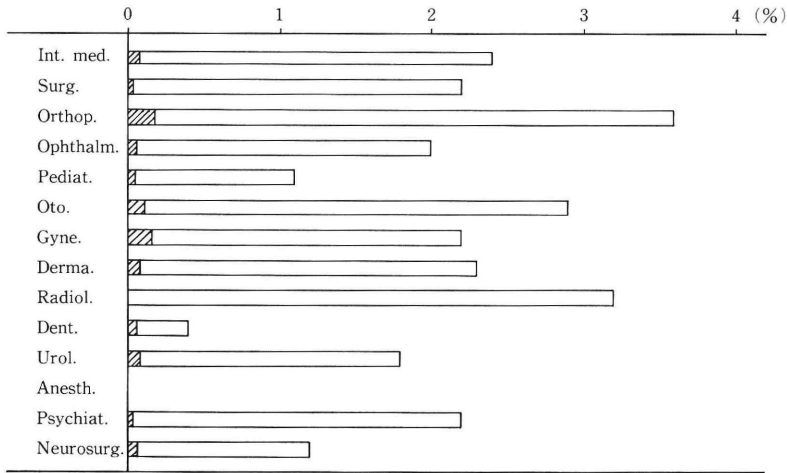


Fig. 2. Ratio of Number of Unreceived Drugs and Number of Final Unreceived drugs to Sheet Number of Prescriptions on Each Department (January~December, 1984).

の実施による影響は少ないように思われる。

表 2, 図 2 より, 1984 年 1 月から 12 月までの 1 年間の診療科別の処方せん枚数, 当日残置率, 最終残置率について検討した。発行処方せん枚数は内科が最も多く, 処方せん枚数全体の 3 割を占め, 次に小児科, 眼科が多かった。当日残置率の高い診療科は整形外科 (3.6%), 放射線科 (3.2%) および耳鼻咽喉科 (2.9%) であり, 当日残置薬数の多い診療科は内科 (1,332 件), 整形外科 (384 件), 眼科 (371 件) および耳鼻咽喉科 (342 件) であった。最終残置率の高い診療科は整形外科 (0.18%), 産婦人科 (0.16%), 耳鼻咽喉科 (0.11%) および内科 (0.08%) であった。表 2 と図 2 を比較すると, 処方せん枚数の多い診療科ほど当日残置薬数が多いが, 処方せん枚数と残置率とは必ずしもパラレルではないことがわかる。

図 3 は, 平均残置薬数と平均待時間および平均処方せん枚数を曜日別に示した。待時間は, 月曜日が最も長くそのピーク時は 42 分であり, 土曜日は最も短かくピーク時は 21 分であった。処方せん枚数は月曜日, 金曜日が多く, 当日残置薬数は土曜日が少なく, 金曜日が最も多かった。これら得られたデータから, 処方せん枚数の動向と待時間の増減はやや似た傾向を示した。

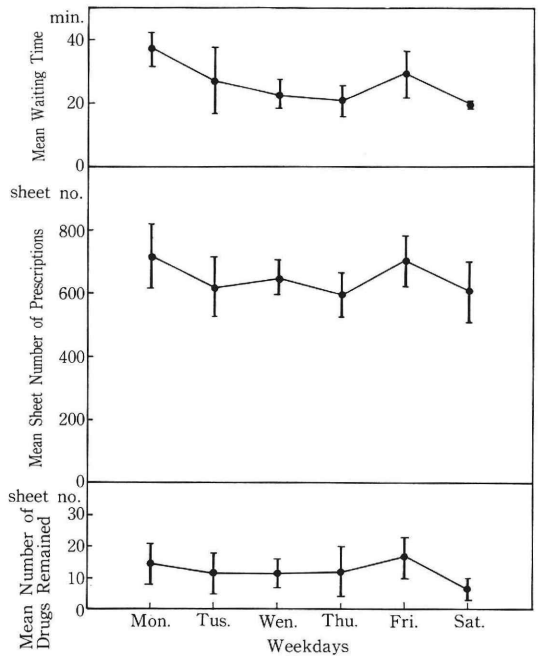


Fig. 3. Relationships between Number of Unreceived Drugs and Sheet Number of Prescriptions and Mean Waiting Time on Weekdays (19, November~1, December, 1984 & 27, January~16, February, 1985).

## 結 語

残置薬発生には多くの因子が影響している

**Table 2.** Sheet Number of Prescriptions and Number of Unreceived Drugs and

		m.	1	2	3	4
Int. med.	Sheet no. Prescriptions		4631	4750	5133	4489
	Unreceived Drugs		100	119	110	91
	Final Unreceived Drugs		0	3	3	2
Surg.	Sheet no. Prescriptions		931	944	1031	1007
	Unreceived Drugs		18	23	16	19
	Final Unreceived Drugs		0	0	0	1
Orthop.	Sheet no. Prescriptions		836	833	855	881
	Unreceived Drugs		32	19	30	32
	Final Unreceived Drugs		3	0	1	4
Ophthalm.	Sheet no. Prescriptions		1264	1323	1599	1487
	Unreceived Drugs		31	26	28	23
	Final Unreceived Drugs		1	0	2	2
Pediat.	Sheet no. Prescriptions		2318	1824	1887	1787
	Unreceived Drugs		11	24	23	30
	Final Unreceived Drugs		2	1	0	2
Oto.	Sheet no. Prescriptions		863	898	988	1011
	Unreceived Drugs		36	25	28	30
	Final Unreceived Drugs		2	0	1	0
Gyne.	Sheet no. Prescriptions		330	332	354	319
	Unreceived Drugs		9	2	9	8
	Final Unreceived Drugs		0	0	1	1
Derma.	Sheet no. Prescriptions		1205	1190	1306	1220
	Unreceived Drugs 27		27	17	39	22
	Final Unreceived Drugs		1	0	0	1
Radiol.	Sheet no. Prescriptions		22	19	20	23
	Unreceived Drugs		1	0	1	0
	Final Unreceived Drugs		0	0	0	0
Dent.	Sheet no. Prescriptions		172	152	139	135
	Unreceived Drugs		0	0	0	0
	Final Unreceived Drugs		0	0	0	0
Urol.	Sheet no. Prescriptions		597	646	648	603
	Unreceived Drugs		12	9	9	14
	Final Unreceived Drugs		0	0	0	0
Anesth.	Sheet no. Prescriptions		24	26	30	39
	Unreceived Drugs		0	0	0	0
	Final Unreceived Drugs		0	0	0	0
Psychiat.	Sheet no. Prescriptions		417	482	502	435
	Unreceived Drugs		11	10	15	7
	Final Unreceived Drugs		0	0	0	0
Neurosurg.	Sheet no. Prescriptions		724	770	845	782
	Unreceived Drugs		11	6	9	4
	Final Unreceived Drugs		2	0	0	0
Total	Sheet no. Prescriptions		14334	14189	15337	14218
	Unreceived Drugs		299	289	317	280
	Final Unreceived Drugs		11	4	8	13

ことが考えられるが、薬局における因子には処方せん枚数、待時間等種々の要因が関与していると思われる。これを防止するより効果的な対策としては薬局業務だけの問題として取り上げるのでは不十分で、病院全体での視野でとらえていくことが必要である。また残置薬をなくし、ノンコンプ

ライアンスを防ぐための根本的な改善対策としては、処方された薬剤が薬物療法において患者自身にとっていかに必要なものであるかを理解させるよう指導することであると考えらる。

Final Unreceived Drugs on Each Department (January~December, 1984.)

5	6	7	8	9	10	11	12	Total
4843	4862	4689	4674	4451	4602	4440	4596	56160
95	106	113	102	119	118	108	151	1332
4	3	4	7	3	10	2	5	46
1086	1008	1033	1031	998	1034	986	1111	12200
22	20	24	23	24	21	29	30	269
1	0	0	0	0	0	2	0	4
946	993	915	992	880	858	827	840	10656
46	43	26	40	31	26	28	31	384
0	2	1	1	1	2	3	1	19
1638	1688	1656	1731	1517	1614	1479	1586	18582
32	21	31	35	37	46	30	31	371
1	2	0	2	1	0	0	0	11
2119	2458	2440	2268	1985	2304	2164	2379	25933
18	28	23	19	18	28	23	33	278
0	1	0	1	3	1	0	1	12
1074	1074	1010	1013	886	1047	973	1162	11999
24	27	26	34	17	30	28	37	342
3	2	0	2	0	1	2	0	13
353	360	453	413	384	348	364	420	4430
8	11	5	13	5	6	6	16	98
1	0	0	0	1	0	1	2	7
1285	1320	1434	1567	1065	1183	1072	1134	14981
18	42	29	34	34	22	22	35	341
2	3	0	1	1	0	2	0	11
22	21	23	23	33	21	19	37	283
1	1	1	0	2	2	0	0	9
0	0	0	0	0	0	0	0	0
146	143	127	142	154	93	150	136	1689
0	0	0	0	2	1	1	2	6
0	0	0	0	1	0	0	0	1
699	742	639	750	638	683	604	656	7905
10	17	8	14	12	18	10	9	142
0	2	0	0	0	2	1	1	6
47	45	37	34	36	52	44	46	460
0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0
512	478	492	467	499	523	519	508	5834
8	13	7	11	11	10	12	13	128
0	1	0	0	1	0	0	0	2
835	862	876	892	824	896	834	881	10021
6	4	13	12	12	16	15	12	120
0	1	0	0	2	1	0	0	6
15605	16054	15824	15997	14350	15258	14475	15492	181133
288	333	306	337	324	344	312	400	3820
12	17	5	14	14	17	13	10	138

## 文 献

- 1) 波谷文則：残置薬の実情とその影響，薬業時報（臨時増刊），5900，10，1978.
- 2) 佐藤 勲：残置薬の実態，医薬ジャーナル，15，1766，1979.
- 3) 山岡桂子，渡利築紫，佐々木真理子他：病院薬剤部における残置薬数と諸要因間の関係，薬剤学，38，109，1978.
- 4) 小林晃子，中山和文，向 孝次：残置薬に対する措置，医学ジャーナル，16，949，1980.  
(昭和61年10月21日 受理)